



企画展

Thematic Exhibition
Ghosts, Ghouls, and Goblins
Strange and Fantastical Figures in Japanese Art

鬼・妖怪・化け物…
怪々奇々

2020年
7月18日(土)
— 9月13日(日)

展覧会概要

死後の世界、寝静まった後の夜の時間、暗い闇の向こう側、普段立ち入らない場所や、他人の心のなか。見えない領域にひそむ恐怖は、一般に鬼や幽霊・妖怪といった存在に置き換えられてきました。

かれらは、物語の中では驚かせ怖がらせ、絵画として描かれればユニークな姿で人々の目を楽しませもしてきました。

本展では、古典文学に記された怪奇現象から、幽霊や鬼、妖怪の世界をご紹介します。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 怪々奇々 - 鬼・妖怪・化け物…
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2020年7月18日(土)～9月13日(日) ※会期中一部展示替を行います。
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、8月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料 ※特別展「漆」との共通料金
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫
- ◆協力 名古屋市交通局
- ◆同時期開催 特別展「漆 - 徳川美術館珠玉の名品 -」 本館展示室

プレス内覧会

2020年7月17日(金) 午後1時30分～2時30分

会場：徳川美術館 講堂

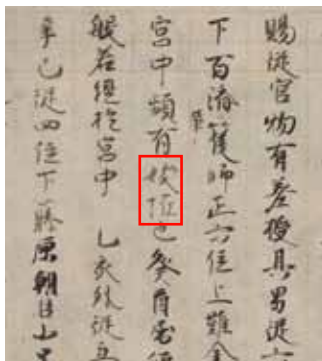
内容：展覧会担当学芸員による概要説明の後、展示室にて自由取材

第1章 怪異がおきる

普段とは異なる怪しげな出来事やモノによって、恐怖や不安が生み出されるのは、現代も昔も変わりません。科学が未発達で原因を突き止められなかった時代、そうした「怪異」は、もののけや鬼・妖怪といった存在によって引き起こされると解釈されてきました。

災害や戦乱も多かった平安時代には、さまざまな怪異が書きのこされました。怪異の記録からは、人々が何におびえ、どのように立ち向かおうとしてきたのかがうかがえます。

右：続日本紀
四十卷の内 卷三十四(部分)
「妖怪」という言葉の初出典は、平安時代初期に書かれた歴史書『続日本紀』の中の宝亀8年(777)まで遡ることが出来る。ここでいう妖怪は、現在イメージするそれとは異なり、怪奇現象そのものを示している。



上：徒然草絵巻(第五十段)十二卷の内 卷三(部分)
京に現れた鬼を見ようと集まった人々の間で喧嘩が起きた場面を描き、「この頃数日間続く病が流行り、鬼はその前触れだったのではという人もいた」と締めくくられている。事実、延慶3年(1310)に風疹が全国的に流行していたことから、当時の人々が疫病という見えない恐怖を鬼に置き換えて解釈していたことがうかがえる。(7/18～8/18公開)

第2章 鬼

頭には角、口には牙を生やし、険しい表情を浮かべた鬼。おとぎ話に登場し、節分でもおなじみの鬼は、悪者のように思われがちですが、必ずしもそうではありません。もともと「鬼」という字は、中国では死者の魂を意味し、日本では隠れて姿を見せない存在を意味していました。鬼の立場は、疫病の前触れや死後にたどり着くかもしれない地獄の番人、あるいは神仏をとりまく眷属や守護神など、説話や物語によってさまざまです。



右：重要文化財 破来頓等絵巻
生前に悪行を働き、閻魔大王によって地獄に墮とされた亡者は、獄卒と呼ばれる鬼によって責め苦を受けることとなる。絵巻の中で鬼の恐ろしさを描くことで、仏教の教義を広める一助を果たしている。(8/19～9/13公開)



大江山絵巻(酒吞童子絵巻)三卷の内 下巻(部分)
酒吞童子(画面右上)は丹波の大江山に住んでいたとされる鬼の頭領である。都から貴族の娘が次々と姿を消し、源頼光・藤原保昌・渡辺綱らに酒吞童子退治の勅命が下った。絵は頼光らが素性を隠して宮殿に入り、鬼たちによっておどろおどろしい歓迎の宴が開かれる場面である。この後、頼光らは酒吞童子が酔って眠ったところを成敗したが、その際の酒吞童子は赤鬼の姿で描かれている。(会期中巻替あり)

第3章 怨念と怨霊

恐怖や不安が生まれるのは、もののけや鬼・妖怪によるとは限りません。人によって災いが引き起こされると考えられることもありました。

大規模な自然災害や疫病がおこると、菅原道真(八四五～九〇三)のように、政治的な争いのなかで非業の死を遂げた人物の怨霊の祟りとおそれられました。また『源氏物語』の六条御息所(みよきよ)に代表される、生きてる人の霊が人を苦しめる説話も多く生まれました。時に人もおそろしい存在となります。



日高川草紙絵巻(模本)
蛇身となって愛する僧、賢学が逃げ込んだ鐘に巻き付き、狂気と歓喜に恍惚と笑いながら、地獄へ墮ちていこうとする娘。安珍・清姫の道成寺説話としても著名な物語である。「あらあらうれしや、此のまま奈落の底に入りて、出る事あるまじ、離るる事あるまじや」と、娘の情念が書き添えられている。(会期中巻替あり)

左：能面 蛇
伝是閑吉満作
女性の嫉妬の悲しみと怒りの極限を表現した「般若」の表現を更に極度におしすすめ、蛇体と化したのが「蛇」である。(8/19～9/13公開)



右：能面 瘦女
伝越智吉舟作
死んでなお、相手の男に恨みごとを訴える女の死霊の面。頬はこけ、陥没した眼窩がいかに哀れを誘う。(7/18～8/18公開)

第4章 妖怪の姿

原因がわからないほど、人は恐怖や不安に駆り立てられます。反対に原因がわかると、恐怖や不安は和らぎます。恐怖や不安の原因となる不可解な現象の正体に、ものけや妖怪・化け物を想像し、さらに描いて姿形を与えることで、人々は恐怖や不安と共存してきました。

室町時代から描かれるようになった妖怪は、江戸時代の中頃には博物学的な関心のなかで、名前を付けられ、個性的なキャラクターとして迎えられるようになりました。怖いだけでなく、面白かったり、思いのほか可愛かったり。個性あふれる妖怪の姿をお楽しみください。

ときに怖く、ときにユーモラス。
まるで人間のような喜怒哀楽にあふれる
妖怪たちの大行進、それが
「百鬼夜行絵巻」！

全て：百鬼夜行絵巻 模本（部分）
（会期中巻替あり）



百鬼夜行絵巻 模本（部分）（会期中巻替あり）

第5章 怪談

江戸時代には、中国・明時代に編まれた怪異小説集を元にした怪談集が度々刊行され、「百物語」をはじめとする怪談が流行しました。

江戸時代後期になると、印刷技術の高まりのなかで、複雑で幻想的なストーリーで人々を魅了した「読本」を中心に、怪談話は華麗な錦絵となって愛好されました。おどろおどろしい表情や派手なアクションが怪談の世界へと広がります。



上：百物語戯巻六（部分）

室町時代には名前の無かった妖怪たちも、江戸時代中期になると個別の名前とキャラクター設定が付けられ始めた。妖怪カタログともいべき本品は、見ているだけでも楽しめる。

下：武大夫物語絵巻 三巻の内下巻（部分）
武大夫は、伊勢国に住む生稲武大夫といい、幼名を平八郎といった。武大夫は、16歳の夏に百物語を行い、30日間昼夜を問わずさまざまな化け物に出遭ったが、勇気があり驚かないので、化け物はとうとう退散してしまう、という物語が描き出されている。



視聴者・読者プレゼント提供

企画展「怪々奇々 一鬼・妖怪・化け物…」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。

本券で同期間開催の特別展「漆—徳川美術館珠玉の名品—」も御覧いただけます。

お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



徳川美術館
The Tokugawa Art Museum

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261

〔報道関係対応窓口〕徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



企画展 怪々奇々 一鬼・妖怪・化け物…

広報画像申請書 使用期間：～2020年9月13日



No.1 日高川草紙絵巻 (模本)
江戸時代 18-19世紀
徳川美術館蔵
(会期中巻替あり)



No.2 重要文化財 はらいとんどうらまき
鎌倉-南北朝時代 14世紀
徳川美術館蔵
(8月19日～9月13日公開)



No.3 百鬼夜行絵巻 模本 (部分)
江戸時代 18-19世紀
徳川美術館蔵
(会期中巻替あり)



No.4 百鬼夜行絵巻 模本 (部分)
江戸時代 18-19世紀
徳川美術館蔵
(会期中巻替あり)



No.5 大江山絵巻 (酒呑童子絵巻) 三巻の内 中巻 (部分)
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵
(会期中巻替あり)



No.6
百物語戯隻六 (部分)
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp